

第31期目録委員会記録 No.16

第16回委員会

日時：2009年1月24日（土）14時～17時

場所：日本図書館協会5階会議室

出席：中井委員長，稲浜，木下，平田，古川，横山

<事務局>磯部

[配付資料]

1. 2009年度目録委員会事業計画（案）・2008年度事業進捗状況（1ページ-A4，中井委員長）
2. NACSIS-CAT登録1億件突破記念講演会「共に創り、共に育てる知のインフラ～NACSIS-CATの軌跡と展望～」（1ページ-A4，平田委員）
3. 国際目録原則（2008.12.18最終版 修正箇所ハイライト版）（16ページ-A4，中井委員長）
4. 国際目録原則覚書（2008.12.18最終版 10ページ-A4，中井委員長）
5. 国際目録原則用語集（2009.1.7最終版6ページ-A4，中井委員長）
6. RDA Full Draft. Chap. 5-11（計627ページ-A4，事務局コピー）
7. RDA最終草案 第1章 体现形と個別資料の属性の記録に関するガイドラインの主要部分（改訂版）（2ページ-A4，古川委員）
8. RDA草案 コアエレメントの検討～Title proper, Earlier variant title, Later variant title（6ページ-A4，稲浜委員）
9. RDA草案（2008.10.31）第2章4 責任表示（4ページ-A4，木下委員）
10. Chapter2 2.5 Edition statement（RDA最終草案第2章 2.5 版表示）（4ページ-A4，中井委員長）
11. RDA draft のNumbering of Serials（2.6）について（2ページ-A4，平田委員）
12. RDA最終草案のコア・エレメント Publisher's nameからCopyright dateまで（2ページ-A4，古川委員）
13. セクション2以降の分担（案）（1ページ-A4，古川委員）
14. 第31期目録委員会記録 No.14（4ページ-A4，事務局）
15. 第31期目録委員会記録 No.15（案）（3ページ-A4，事務局）

[報告事項]

1. 2009年度目録委員会事業計画（案）・2008年度事業進捗状況について  
中井委員長より2009年度目録委員会事業計画（案）・2008年度事業進捗状況の説明があった。次期NCRの方針について関係者の意見を聴取する、目録委員会の調査活動の成果を公表するなどを計画している。（資料1）
2. 各種行事予定について  
中井委員長より、2月5日（木）に国立国会図書館の公開講演会「目録の現在とこれから」を開催する旨、再度案内があった。平田委員より、翌2月6日（金）にNIIで開催する

「NACSIS-CAT登録一億件突破記念講演会」についても案内があった。(第31期目録委員会記録 No.14、15参照)

### 3. 「国際目録原則覚書」最終草案について

横山委員から、メールで検討を重ねていた「国際目録原則覚書」の日本語訳を1月23日にIME ICC事務局へ送付した旨、報告があった。

各言語の翻訳担当者からそれぞれの翻訳を自国のサイトに載せたい希望が出ており、IME ICC事務局が公表権について出版社とIFLAに問い合わせるとのことだが、回答は2月以降になる。

11～12カ国の言語の翻訳が進んでおり、各国版をまとめて印刷する予定になっている。

日本語訳を国立国会図書館ウェブサイトに掲載する際は、用語集について、英語形から日本語形への逆引きをつけるなどすれば便利ではという意見が出された。

#### [検討事項]

1. 古川委員より、資料7中の誤表示の項目に関して、転記の原則に忠実な本来の方針のほかに、逐次刊行物と更新資料の本タイトルには正確な形を記録するという例外規定や、ありのままの形にthat isを介して正確な形を続ける形式もあるなどの補足説明があった。

#### 2. RDAの最終草案2章のコアエレメント

稲浜(2章3)、木下(2章4)、中井(2章5)、平田(2章6)、古川(2章8-11)が分担し、それぞれのコアエレメントについて説明を行った。

各章について、以下の意見が出された。

##### (2章3 タイトル)

- ・部分ごとのタイトルを出現順に記録するとなったのは大きい。
- ・2.3.7 変化前のタイトル、2.3.8 変化後のタイトルがパラレルに対応しているわけではない。

- ・関連する内容の例が離れており、それぞれの画面例だけだと分かりにくく、相互参照が難しい。

##### (2章4 責任表示)

- ・名前の省略の書き方が不十分。
- ・責任表示とした場合は全部典拠管理が必要になる。記述優先か典拠管理が優先か。
- ・役割の異なる責任表示が1つ以上ある場合は全部書くか書かなくていいか分からない。
- ・タイトルは必須だが、責任表示は必須ではない。最初の作成者以外は国際目録原則ではadditionalになっており、これを具体化するとRDAになるのでは。

##### (2章5 版表示)

- ・statementがdesignationに代わったが、理由がどこにあるか、その違いが分からない。
- ・RDA Element Analysisではedition statementはエレメントに、designationはサブエレメントになっている。この表を参照しないと理解できないのでは。

##### (2章6 逐次刊行物のナンバリング)

- ・複写、複製のナンバリングの規定は今と逆になる。オリジナルのナンバーを手がかりに検索するとき不便になるのでは。

(2章8-11)

- ・非刊行形態のときは制作年 ( date of production ) を記録する。これは製作年とは異なるものである。
- ・著作権年はサブエレメントではなく、エレメントの位置づけである。著作権管理団体との関係がエレメントとして重要だからか。

次回以降の委員会で、セクション2以降 ( 5-11章 ) のレビューを行うこととした。古川委員作成の案に沿って、次の分担を進める。

セクション2	5章-6章	古川
	7章	木下
セクション3	8章-9章	渡邊
	10章	中井
	11章	横山
セクション4		木下
セクション5		稲浜
セクション6		木下
セクション7		中井
セクション8-9		平田
付録ABC		横山
付録DE		渡邊
付録FGH		稲浜
付録IJK		古川
付録M		全員で検討

### 3. 議事録確認

第15回記録案 ( 資料15 ) を確認した。

次回以降の委員会の予定

3月7日 ( 土 )

以上